

会議名	長浜市指定管理者選定委員会第2委員会 (令和3年度第4回会議)
日時	令和3年10月7日(木)
審査対象	長浜勤労者総合福祉センター

審査結果概要

- (1) 施設所管課(産業観光部 商工振興課)からの募集経過説明
- (2) 申請団体(株式会社ロハス長浜)による説明、プレゼンテーション
- (3) 質疑応答【以下質疑応答のとおり】
- (4) 採点、集計
1,000点満点中:714点(100点満点中:71.40点)
- (5) 審査【以下審査のとおり】
指定管理者候補として適当と判断する者
所在地 長浜市港町4番9号
名称 株式会社ロハス長浜
代表者 代表取締役 前川 和彦
選定にあたっての条件 特になし

質疑応答

- (委員) 利用者数の目標について、過去11年間のピーク時の4万人を令和8年度に達成するものとし、収支計画の料金収入を5%から7%の増加を見込まれている。令和2年度の利用者は新型コロナウイルスの影響で2万人程度であり、4万人の達成は大変であると感じる。4万人を下回った場合、収支計画の収入が減ることになるがどのように対応されるのか。
- (申請者) 指定管理を受けて1、2年目で年間700万円の収益を上げてきた。そこから緩やかに収益は減少しているが、令和4年度の目標は新型コロナウイルスの影響を加味している。これまでのノウハウを活かして、今後5年間の中でピーク時の状態にもっていきたい。また、これまで地元の貸し館利用に重点を置いてきたが、市外からの利用を増やすためのPRに力を入れたい。昨年度はイベントを全くやっていないことから、かなり利用者が減った。各事業についても人数も絞ってやっていた。コロナが収まれば人数制限をなくしていきたい。企業さんリモートではなく顔を合わせて話がしたいという声も聴いているため、PRをしっかりしていきたい。
- (委員) 小学生や中学生の昼食会場の利用も4万人に計上されているのか。婚活事業でアロマオイルやバドミントンの実施について、こうした発想を生み出すためにどのような研修を行っているのか。

- (申請者) 研修について、女性スタッフを中心に検討して出てきた発想である。食事の会場については、“ハマベン”（長浜ご当地弁当を決めるグランプリ）という事業を実施したものの弁当を食べる場所がない、修学旅行の学生が弁当を食べる場所がないという要望があつて、地元のものを地元で食べていただけるよう、連携していければ人数は増えると思う。
- (委員) 市内の企業の勤労者の教育や研修はさざなみタウンへ活用を移すということで、さざなみタウンからから臨湖へ活用を移す事業はあるか。
- (申請者) 予約が一杯になったときは、市内の公共施設同士で紹介している。さざなみタウンは2か月前から、臨湖は半年前から予約ができる。早くにしっかり予約を取りたい方は臨湖を利用されるし、徒歩での参加者が多い場合はさざなみタウンを利用される傾向もある。利用者によって使い分けられているため、臨湖の利用者がなくなるというものではない。また、文化講座について、近年講座の先生と契約書を交わしている。趣味の延長で実施してきた先生方も契約書を締結することで生業として講座を行っていただくことができ、そうした方々に使っていただけるといいかなと思う。
- (委員) 設置目的に、「勤労者の福祉の増進と勤労意欲の向上を図り、雇用の促進と職業の安定に資することを目的とする。」とある。施設を取り巻く環境が、さざなみタウンの整備などで厳しい状況であるということであるが、これまで施設を運営されてきた経験を踏まえて、今後、勤労者へのアプローチはどのように取り組んでいくのか。
- (申請者) 様々な企業と話をする中で、大きなフォーラム、長期の企業立ち上げ及びスタッフの募集の事務をする場所としての利用など様々な使い方を考えられている。リモートが進んだといっても、直接対面で集まる機会もあるため、臨湖は駅から近いということでもよく参加者が集まっている。勤労者については、隣の一般財団法人湖北勤労者福祉会館と連携し、企業が使うだけでなく、企業が推奨するレクリエーションの会場として利用いただけないか検討をしている。
- (委員) 施設を取り巻く環境だけを考えると、利用目的がぼやけるのかなと思う。勤労者への考え方はしっかりと取り組んでいただきたい。サンパレスの運営もされているが、臨湖との住み分けはあるか。
- (申請者) サンパレスは、勤労青少年ホームという名称であるが、生涯学習文化課の所管でまちづくりセンターの代わりになっているような状況である。利用料金もまちづくりセンターと同等額で、地元のサークル活動で利用されている。臨湖の利用が一杯である場合はサンパレスを紹介したり、実施する講座を両施設あわせて紹介するなど連携を図っている。
- (委員) サンパレスは生涯学習や市民活躍の分野の利用者層を持ってい

おり、共同でできる部分は連携して実施しているということ
でよいか。

- (申請者) そうである。
- (委員) さざなみタウンと事業の住み分けをされており、子育てに重点を置いた事業展開を行うということであるが、新規事業か既存事業の拡大か。
- (申請者) これまでから実施しているものであるが、合同会社L O C Oと連携して事業をさらに充実させていきたい。働きたいという女性はあるものの、働ける時間は限られていることから、他の施設や団体と連携する中で、広く情報を集めて女性が働ける支援を行いたい。

審査

- (委員長) 集計結果を踏まえ、指定管理者候補として株式会社ロハス長浜が適当かどうか意見をお願いします。また、評価できる点、改善できる点があれば意見をお願いします。
- (委員) まちづくりセンターが営利目的で使用できることやさざなみタウンができたことを踏まえて、自主事業などこれからの展開を考えられていて、適切に事業を実施いただけると感じた。
- (委員) 財務状況の健全性について、厳しめの評価を行った。令和2年度は、営業損失が1, 200万円出ていて、その分雑収入で何らかの補助金や給付金で補填されていると思う。新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見えない中で、純資産が500万円を切り、1, 200万円の営業損失がある状況は厳しい。通常の軌道に早く戻れば今まで通りの利益が出るのではないかと思う。
- (委員) 市民感覚で考えると新しい施設に行きがちで、PRもよくされている施設が利用しやすい。もっと情報発信すると利用したいと思う人も増えると感じた。
- (委員) 施設の設置目的について、市民利用という観点から離れているような感じがした。勤労者への取組の考え方は前向きな発言もあったが、この施設をどうしていくのかということを経営所管課も含めて考えていく必要がある。存在意義や運営の目的をしっかりと持って管理していただきたい。指定期間の各年度の評価は、そのあたりを加味して評価していただきたい。
- (委員長) 年度評価について、令和元年度まではA評価で昨年度はB評価でコロナの影響があると思われる。さざなみタウンやサンパレスとの差別化を図られている点については評価できる。問題だと思うのは、利用者数の達成目標の設定が少し高いのではないかと感じる。アフターコロナの利用という記載があるが、来年度もどうなるかわからない状況の中で、これだけの利用者増加を見込むというのは少し楽観的であると感じた。ほかは問題ないと思うので、これまでの実績から引き続き管理を行っていただきたい。

それでは、株式会社ロハス長浜を指定管理者候補として決定してよろしいか。

(異議なし)

結論、株式会社ロハス長浜を指定管理者候補とする。